とどけ夢 未来へ
-DREAMING-

横田 香代子 さん

●城東中学校３年

人と関わる仕事

私は将来、人と関わることで「喜び」が生まれる仕事をしたいと思っています。その中で最近、気になっている職業はカメラマンです。

もともと、カメラが好きということもありましたが、マイ・チャレンジでカメラマンの体験をしてから、「人を撮る」ということにとても興味をもちました。それは、撮られる人と会話をしたりしながら、その人の一番いい表情を見つけ、タイミングを逃さずに撮ることに、とてもやりがいを感じたからです。

これが今の私の夢です。

みんな広場

佐野ブランドキャラクター
さのまる

市長からのメッセージ

いよいよ7月、子どもたちが待ちに待った夏休みがやってきます。各町会などで行われる夏祭りの準備もそろそろ始まっているのではないでしょうか。ぜひ、地元のさまざまな催しに参加して、夏の楽しい思い出をたくさん作ってください。

先月7日、爽やかな快晴のもと、佐野市消防操法大会が開催されました。各分団の精鋭たちが、一糸乱れぬチームワークで日頃の練習の成果を披露し、客席から大きな拍手をいただいていました。私も消防団に40年間所属しておりましたが、競技に参加した皆さんの姿を拝見し、当時、この大会での優勝を目指して練習したことを思い出しました。団員の皆さんは、各自が生業を持ちながら夏季点検や訓練に励み、火災や災害などの際には危険を顧みず、地域社会を守ってくれています。団員のご家族を含め、その頑張りにあらためて感謝いたします。

さて、先月の記者会見で発表しましたが「さのまる」の結婚披露宴への出演が可能になりました。一定の要件を満たせば、さのまるがお二人の門出をお祝いに駆けつけます。さっそく今月、第1号となる結婚披露宴への出演が予定されております。さのまるからお二人の幸せな様子が聞けるのを楽しみにしています。

現在建設中の新庁舎ですが、順調に工事が進められております。建物の北側から順次足場も取れ、今月末には庁舎全体の外観がご覧いただけると思いますので楽しみにしてください。

今年は梅雨明けが長引きそうといわれております。土砂崩れや河川の氾濫、大水、ゲリラ豪雨なども心配されます。市民の皆さんには家庭での備蓄や避難場所の確認など、普段からの備えを欠かさないようお願いします。

岡部 正英

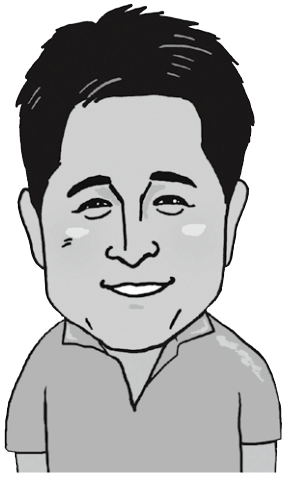
今回の表紙「第10回佐野市消防操法大会」6月7日（日）・田沼グリーンスポーツセンター

佐野・田沼・葛生の各支団を代表する１０チームが出場し、ポンプ自動車の部、小型動力ポンプの部で、日ごろの訓練の成果を披露しました。

６月現在、佐野市内では３１個分団・７０１名の消防団員が、市民の皆さんの安心安全を守るために活動しています。

茂呂 裕和さん
（高山町）

キラリ★話題の「ひと」



○プロフィール
高山町在住。
昭和４３年生まれ。
飲食店などさまざまな会社を経営。
農業の活性化を軸に、佐野市の活性化に取り組む。

美しい景色と美味しい食事

茂呂さんは22歳で起業し、現在、空調設備や建築関係、飲食店や障がいのある方の社会参画支援の農産物加工会社など、10社を経営しています。

茂呂さんの人生の目標は100人の経営者育成で、昨年から市内で、セミナー「技術向上委員会」を主催。毎回のユニークな講師選びに茂呂さんの人脈の広さが伺えます。

茂呂さんが特に力を入れているのが全事業のサービス業化。「兼業農家に育ったので、農業の素晴らしさを伝えたい。佐野の活性化には農業のサービス業化が必要です」と力説します。農産物をそのままでなく、加工度と付加価値を高めた商品開発をし、農業のサービス業化を実践しています。

豪華列車「ななつ星ｉｎ九州」の車両をデザインした水戸岡鋭治さんの言う「１回きりの利益にとらわれず、座席を減らしビュッフェを広げることで満足度が向上し、何度も来てくれることに重点を置く」という考えに感銘を受けた茂呂さん。「人の記憶に残るのはまず美しい景色であり、そこで美味しい食事があれば、また行きたくなる」と言います。

活動のベースである馬門町の店舗兼事務所内は、陽が降り注ぎ木の香りがします。馬門町を選んだ理由を尋ねると「ここがど田舎で富士山が見える土地だから。馬門の田園風景を見ながら食事をしに多くの人に来てもらい、リピーターを増やし、佐野の活性化に繋げたい」「今あるものの良さを引き出すことで佐野が有名になり、訪れる人が増え、そして子どもたちが自分の住む土地を自慢してくれることを目指しています」と話してくれました。

「まずやってみる！」をモットーに思ったことは行動に移す茂呂さんは、緑と景観を大切に、大衆より個を大切にしながら、アイディアを膨らませて『あったらいいな』を着実に形にしていきます。

新しい形のツーリズムの予感がします。茂呂さんのわくわくするような仕掛けがこれからも楽しみです。

（市民記者　永倉文子）

佐野弁 ばんでい

「オッ」の付く語を多用すると語気があらっぽくなる

語の前に「オッ」（接頭語）の付く方言はたくさんあります。「オッ」には、語の意味を強めたり変化させたりするはたらきがあります。これらの方言をむやみに使うと、語調が強まって、「佐野弁はあらっぽくて粗雑（そざつ）だ」などといわれるもととなります。「オッ」の付く方言で、昔から使われてきた特徴的なものを挙げてみましょう。

○オッコム…「取り込む」をオッコムといいます。主に干し物（洗濯物、穀類）を取り込む場合に使います。「雷様（らいさま）が鳴り出したから、洗濯物をオッコンでくれ」。オッコムは「オッ＋込む」が意味変化したものです。

○オッパ（ペ）ス…「走る」「走って帰る」をオッパ（ペ）スといいます。「あの人なら、さっきウチ（自宅）にオッパ（ペ）シッテッタ（走って行った）よ」。オッパ（ペ）スは「オッ＋馳（は）す」の変化形。馳すは走るの意味です。

○オッピシャグ…「押しつぶす」をオッピシャグとかオッチャブスといいます。「ケーロンゴ（蛙）が、道ッばたで自動車にオッピシャガレ（押しつぶされ）て死んでいたよ」。オッピシャグは「オッ＋拉（ひさ）ぐ」が変化したものです。

○オッポロ（ル）ク…「ゆする」「振るい落とす」を、オッポロ（ル）クといいます。「毬（いが）にキー（気を）つけて、栗の木をオッポロ（ル）ッてクンネケー（くれませんか）」。オッポロ（ル）クは「オッ＋放（ほう）る」が変化したものといわれています。

（市民記者　森下喜一）